1989年5月8日　第三種郵便認可　不屈　新潟県版No.322　2023年4月15日発行　不屈No.586附録（毎月15日発行）

▲　原菊枝

◀　原菊枝の著書
「女子党員獄中記」の表紙

「不屈」No.586附録
新潟県版No.322

治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟
新潟県本部

〒950-0843 新潟市
東区粟山3-8-1
小日向　昭一気付

TEL 090-2972-9678

「原菊枝顕彰碑」の除幕式
五月二十七日に決定

当日は、お孫さん御夫妻が参加の予定

一〇〇年程前、反戦平和のため命がけで闘った女性革命家・原菊枝の顕彰碑が、五月中旬頃完成する予定です。

原菊枝は、一九〇五年生れで伊藤千代子と同じ年齢です。三・一五事件で検挙され、市ヶ谷刑務所で二年余り獄中生活を送りました。その間、どんな弾圧や拷問にもめげず不屈に闘いぬきました。出獄後著したのが「女子党員獄中記」です。

当日は、原菊枝さんのお孫御夫妻が参加される予定です。

募金活動にご協力ください。

●除幕式

期　日　五月二十七日（土）

建立場所　あしぬま荘の庭
新潟市東区はなみずき2-3-7

※当日のプログラムは追ってお知らせします。

主な記事

●「原菊枝顕彰碑」除幕式5月27日に決定
●「原菊枝顕彰碑」建立、国賠署名、会員拡大
「特別期間」4／1～6／末の成功を
2023年4月13日　県理事会
●連載特集
「満蒙開拓団」ーその国策とわが一家の足跡④　須田　一彦（阿賀野）
新潟県における戦後の革新運動の昂揚とレッドパージ④　相沢　寛（新　潟）

1989年5月8日　第三種郵便認可　不屈　新潟県版No.322　2023年4月15日発行　不屈No.586附録（毎月15日発行）

「原菊枝顕彰碑」建立、国賠署名と会員拡大の「特別期間」4／1～6／末の成功を

2023年4月13日
治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟新潟県本部　県理事会

【1】情勢の特徴と国賠同盟

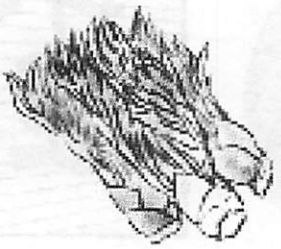
1、統一地方選挙前半戦の結果

統一地方選挙の前半戦、国賠同盟員の候補者は各地で大健闘した。県本部は同盟員の各候補に「必勝ポスター」を贈り激励した。

同盟員の候補は、医療と福祉・子育て支援などの切実な課題と併せて、岸田政権の大軍拡を正面から批判し、「戦争の準備ではなく平和の準備を」と訴えて闘った。

遠藤れい子前県議は、長岡市医師連盟から「候補者として最適任者」との推薦を受け、選挙戦では「『命が大事』、戦争と原発再稼働を許さない」と訴えて共感を広げた。選挙結果は惜敗となったが、こうした論戦は今後に生きるものである。県議選で市民と野党の共闘が実現した選挙区も生まれたが、これを奔流にする草の根の運動の発展が求められる。

政令市新潟の市議選では同盟員でもある8人の候補が暮らしと平和の両面で他の候補を圧倒する論戦を展開し6人が当選。江南区、南区の新人候補も議席まで「あと一歩」と大善戦した。



2、50回目の「国賠法」制定を求める国会請願

5月16日、治安維持法犠牲者への「国家賠償法」制定を求める国会請願が行われる。今回の行動はかつてない切実な意義をもっている。それは岸田政治が、「戦争できる国」から「戦争する国」へと質的な変化をとげているからである。

「安保3文書」の改定は、「敵基地攻撃」を可能とする大軍拡を進めるものであり、政府は報復攻撃を想定して、全国283地区の自衛隊基地に地下シェルターの建設を開始している。世界一の柏崎刈羽原発を抱える新潟県は最も深刻な危険にさらされることとなる。

「放送法の解釈変更」、「学術会議法」改悪問題など、言論・表現、学問の自由圧殺の動きの重大化も、岸田政権が「戦争する国」へと突進する姿を浮き彫りにしている。これらの動きの根底には、歴代政権が稀代の悪法・治安維持法を反省しないばかりか、これを正当化しているという大問題がある。50回目の国会請願行動にむけ、「国賠要求署名」を全会員の運動で大きく成功させよう。

【2】第41回県本部大会（6／28）めざす活動

1「国賠署名・会員拡大の自主目標達成特別期間」（4月1日～6月30日）を成功させよう。

①3月の会員拡大・署名行動結果
別掲

②4月の目標　会員純増5人、署名累計2000筆以上

③「全支部成果と「支部活動の活性化」を大切に

2 「原菊枝顕彰碑」建立運動

①実行委員会設立後の運動
○碑建設作業　5月中旬に完成予定
○「原菊枝顕彰碑」建立の意義を考えるパンフ発行
②賛同人組織・募金活動　同盟員各位も特段のご協力を。
③5月27日（土）「除幕式」於・現地（新潟市東区）
④その他
○第2回実行委員会開催
5月15日（月）13時30分～クロスパル
○全体の収支見通し　150万円目標　4月20日現在　約3分の1達成

3 「新潟県治安維持法犠牲者名簿」の普及

①頒布状況　全部で250部作ったが、もう120部残あり。
②共産党への協力要請した。

4 映画「伊藤千代子の生涯」上映運動

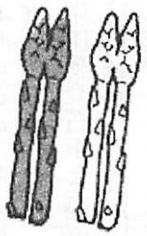
①柏崎市…3月12日上映、入場者150名超
②五泉市…7月29日・ラポルテ五泉
③5月以降、長岡で上映めざす。

5 県本部大会の開催

6月18日（日）10時～　於・万代市民会館

6 その他

①一〇〇周年・木崎争議の教訓を語り継ぐ運動
一斉地方選挙が終了後取り組み予定
②「会費納入」活動の強化改善…4月～6月を新年度会費の集中納入期間に。
③4月の行事・活動計画
○4月12日（水）常任理事会
○4月13日（木）県理事会
○4月17日（月）「不屈」編集委員会
○4月21日（金）ピースフェスタin古町実行委員会



3月の新入党員	
支部	お名前
上越	今井　明さん
〃	小池　信男さん
魚沼	ふじのき浩子さん
新潟	橋本　信行さん
阿賀野	永富　英雄さん
新発田	佐野　正夫さん

● 事務局日誌

3月の行事・活動報告

①3月2日（木）「不屈」編集委員会
②3月6日（月）常任理事会
③3月7日（火）戦争展県実行委員会
④3月10日（金）県理事会
⑤3月の会員拡大は6人、会員減は1人、純増は5だった。
⑥3月の国賠署名増は356筆（新潟192、上越61、阿賀野48、小千谷43、五泉12）だった。

【別掲】会員と署名数の到達状況

2023年　3月末の到達							
支部	会員人数	前月から増員	前月から減員	純増減	国賠署名数（筆）1月末までの累計		国賠署名数（筆）2月末までの累計
					個人	団体	個人
新潟	138	1		3	820	2	828
柏崎	35				100		105
上越	60	2		1	208		209
阿賀野	17	1			101		101
新発田	11	1			10		
五泉	8				101		102
魚沼	7			1	100	7	
長岡	12						
新津	20			1			
三条	6				91		
小千谷	10				300		301
柏崎	6				10		
南魚沼	14	1			93		95
佐渡	4				101	2	111
白根	9		1		17		
県本部					11		10
県合計	343	4	1	5	1,984	11	1,960

1989年5月8日　第三種郵便認可　不屈　新潟県版No.322　2023年4月15日発行　不屈No.586附録（毎月15日発行）

連載特集1

「満蒙開拓団」ーその国策とわが一家の足跡

第4回

須田一彦（阿賀野）

3、関東軍の暴走と残虐行為

①「満州国」の建国と関東軍の体質

満洲進出の先陣を切ったのは、明治の末から鉄道警備隊として、満州に駐屯していた関東軍ですが、この軍隊は世界に例を見ない特異な軍隊でした。

関東軍は、政府・軍中央を無視する独断・暴走・謀略を重ねる軍隊でした。その結果として、軍が満州国を建国したのです。最大なる目的は、ソ連の南下にそなえて、軍の自由になる地域を確保したいという欲望でした。それが「傀儡国家満州国」の建国になります。

さらに、日本軍の体質として持っていた狂暴性が、日中戦争の困難な戦闘の中で極限化し、「南京大虐殺事件」を起こす事になります。

関東軍は、財閥、特務機関、麻薬組織と結び、この満州に超法規地帯の「満洲」を建国4します。石原、板垣を中心に、本国政府、陸軍中央を無視して、満州という別天地でした。この独断・暴走・謀略が、満州国建国へと進みます

関東軍の暴走・謀略は、最初は軍中央や政府が認めない行動・侵略であっても一応「成果・成功」すると、天皇の黙認、追認、鼓舞激励、あげくの果ては「お言葉」を賜わる事によって、お墨付きをもらい、いっそう行動は激化していきました。

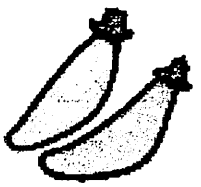
関東軍が最初に起こした謀略は、昭和3年の「張作霖爆殺事件」です。張作霖は満洲で大きな勢力を持っていた軍閥でしたが、日本の進出に抵抗するようになり、彼の乗った汽車を爆破して殺してしまいます。そしてこれを機に、「満州は不穏だ」「居留民保護、満蒙権益保護」のため「満州全土を占領する」という口実で侵略を開始しようと意図しました。しかし政府・軍中央はこれを認めませんでした。以後関東軍は中央の指示を無視し、暴走することになります。

②南京虐殺事件

昭和7年満州国を建国した関東軍は、さらに対ソ戦への基地（第2の満洲）を確保するため、昭和12年中国心臓部の華北への進撃を開始します。しかしこの時は、昭和6年の満洲事変とは、中国の国内事情は全く変わっていました。中国蒋介石軍と毛沢東共産党軍は抗日戦線（国共合作）を組み、奥地へ退却しながら強力な抵抗を続けました。日本軍は上海の上陸に3か月かかり、さらに南京までの追撃300キロの間に、関東運の疲労と狂暴化は激化してゆきます。荒れ狂った関東軍は先陣争いをし、南京から逃れようとする中国軍と民間人と衝突しながら狂暴化してゆきます。

当時「国際戦時法」に日本も加盟していました。この法律は捕虜の扱いはかなり厳重に規定していましたが、荒れ狂った関東軍にはそれを守る余裕は全くありませんでした。しかも　宣戦布告なしの戦争でしたから表向き「捕虜はせぬ（出さぬ）方針」といいながらも、実際の大量な捕虜は、始末（殺す）しか方法は無かったのです。1日に5千人から1万数千人を銃殺したという報告が上がっています。最後は始末に困って揚子江の岸辺に並べて銃殺したということです。戦闘員・一般人を含め20万人前後の人が虐殺されました。

この事件は厳重な報道規制によ



り、日本には報道されませんでした。わずかな外国特派員により世界に報道されましたが、日本人がこの事件を知ったのは、戦後になってからです。当時、この「南京陥落」の戦果を知った日本人は、歓喜し「皇軍を称える歌」の募集には3万6千編の応募があったと言われています。家に居れば良い父であり、兄だった人達が、一旦戦場に出ると狂気が普通になり鬼になっていったのです。

中国人は、関東軍のこの凶暴行為を「日本鬼子・リーベングイツ・悪魔・鬼畜」と言って、憎しみと憎悪を増大してゆきました。この関東軍の残虐体質はどこから生まれたのでしょうか。歴史の教訓は次のようにまとめています。

①隊内での軍規は絶対服従・私的制裁による。戦場で軍規が崩壊すると敵国民に暴発した。②国力・兵力の劣りを精神力で補う（特攻精神・肉弾戦）。「天皇のために命を捧げる」（教育勅語）、「死して虜囚の辱めを受けず」（軍人勅語）の徹底さ。③軍隊内の下剋上傾向（制令線の無視突破）。④物資の現地調達主義（兵站の軽視）からくる略奪・暴行・放火・強姦などです。

緊急のお願い

すべての会員のみなさん

「国賠署名」を5筆、10筆と集め

5月12日県本部必着で届けて下さい!!

4月23日　治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟新潟県本部

統一地方選挙でのご奮闘、大変お疲れさまでした。

さて緊急のお願いです。

5月16日に、治安維持法犠牲者への「国家賠償法」制定を求める国会請願行動が行われます。岸田政権による「戦争する国づくり」への暴走のなか、今度の国会請願はかつてなく大きな意味をもちます。しかし、本県の「国賠署名」の到達は1000筆余りと大きく立ち遅れています。このまま国会請願日を迎えるわけにはいきません。

そこで、「一人あたり、5筆、10筆」の署名を集めて県本部に集中して頂きたいのです。新潟県の会員は340人を超えました。すでに署名を集めて下さった会員も少なくありませんが、そうした方々を含め新たに一人5筆集めてもらえたら1700筆、一人10筆なら3400筆となります。

会員の家族、親しいご近所の友人に働きかけるなら、1日～2日で、5筆、10筆と集めることは可能です。どうかご協力下さい。

集まった署名は、5月12日（金）必着で同封の返信用封筒に、「原菊枝顕彰碑」建立賛同用紙とともに署名用紙を入れて返送して下さい。

4、満州への移民　満蒙開拓団

満州への移民は、満州国建国直後の昭和7年から始まります。最初に送りこまれたのは、現地の治安不安定から一般人ではなく武装移民・在郷軍人でした。しかし、気候や農業の不慣れ、匪賊の襲来により4年間、5回の送出は失敗に終わりました。

一般人・家族移民が始まったのは昭和12年・日中戦争が始まると同時です。昭和12年、日中戦争の勃発と同時に政府は「100万戸、500万人移民計画」を発表します。これは当時の日本の農家戸数500万戸の2割、行く末満州は人口が5千万人になるだろう、その1割を日本人が占めたいという計画でした。

しかし、実際は順調に進んだのは昭和16年までで、太平洋戦争が始まると兵役や軍需工場への動員で移民は減少していきます。送出数は、1位長野（3万8千人）、2位山形、3位熊本、4位福島、5位新潟、6位宮城、7位岐阜です。東北農村県から多く送出されました。

新潟県の送出は5位であり、1万2千651名、4千300戸が送り出されました。うち4千980名・40%が帰らぬ人となりました。

5、青少年義勇隊と興亜少女隊

軍と開拓団の補充要員として組織された「青少年義勇隊」は、全国から集めた15歳から19歳・成績中以上の若者でした。加藤完治を所長とする茨城水戸の内原訓練所で3ヶ月の訓練後、満洲に行きそこで3年間、徹底的な教育を受けました。精神的にも、肉体的にも、戦闘力でも、ほぼ軍隊と同じ能力に育て上げられ、北方警備に着きました。あまりの訓練の過酷さで1割は脱落帰国したと伝えられています。

この青少年義勇隊は昭和13年に発足し、第5次まで8万6千人が送出されました。「右手に鍬左手に銃」を持ち、「土の戦士」と言われ、ソ連国境の開拓団に配置されてゆきます。現地中国人は、関東軍と同じとみていたようです。

一方、少女たちは、昭和14年から小学校6年以上で、国内では女子報国挺身隊に組織されて工場へ動員されました。満洲へは「興亜少女隊」に編成され、花嫁・寮母・従軍看護婦候補として派遣されていったのです。

6、新潟港からの送出

昭和13年に新潟港が「主要送出港」に指定されます。これは昭和6年に上越線が全面開通し、東京～新潟～北朝鮮の羅津経由が、満洲への最短距離になったからです。

新潟港から送出される青少年を励ます歌が欲しいということで、歌の募集が新潟新聞社（新潟日報の前身）が社の一大事業として行います。千葉の小学校教師本橋敏の「土の戦士を送る歌」に決定し、新潟公会堂での発表会の歌が、信濃川に流れたという新聞記事もあります。出港のたびの女学生により歌われた歌です。

「土の戦士を送る歌」（本橋　敏　25歳）その一部です。

1、お国をあとに　はるばると
　あの大陸に　船出する
　土の戦士を　送る日に
　港新潟心から
　あなたの幸を　祈ります

5、土の戦士よ　いざさらば
　この新潟の　お別れに
　生まれ故郷の　日本の
　色と匂いと　想い出に
　船出の夢に　贈ります

6、土の戦士よ　さようなら
　越後の山も　この海も
　双手をあげて　声あげて
　伸びる日本を　負うて往く
　あなたの幸を　祈ります

当時、満州へは新潟、敦賀、下関の3港からの出港でしたが、新潟港からは16万人・6割が渡満しました。しかし、その新潟県の達成率は低調で政府からは「他県に対して極めて熱意無し」と叱責されていました。

それは、『寒くて凍死する』『匪賊にやられる』『二度と帰れない』などの噂が飛んだ事にもよりますが、昭和15年には新潟県は、10%の充足率になっていました。

この15年に我が家は、渡満します。

1989年5月8日　第三種郵便認可　不屈　新潟県版 No.322　2023年4月15日発行　不屈 No.586 附録（毎月15日発行）

連載特集2

新潟県における戦後の革新運動の昂揚と レッドパージ　第4回

相沢　寛（新潟）

（3）、アジアの前進基地化めざすテコとしてのレッド・パージ

1949年は、戦後の日本の政治、経済、労働問題の上で大きな転換を示す年となりました。それを象徴されたのが1月の総選挙での共産党の大躍進でした。こうした情勢の下で強行されたのがレッド・パージ（赤追放）でした。その矛先は当然、日本共産党と戦闘的な労働運動に向けられました。49年4月には「団体等規制令」が公布され、共産党の組織と党員を登録制にするなど、取り締まりの対象とし、思想警察を公然と復活されました。

レッド・パージには二つの側面があります。

1つ目の側面は、「事実上のレッド・パージ」です。「共産党排除」を公然とは口実にしないが、10万人を超える公務員を首切る行政整理や、数十万人の労働者を首切る民間大企業の人減らし「合理化」（企業整備）のなかで、首切りの対象に共産党員やその支持者、組合活動家を優先的に加え、職場と組合から根こそぎ追放したことです。共産党の影響力の強い国鉄、全逓は矢面に立たされ、大量首切りを強行し、一挙に組織を壊滅させる計画をたてました。国鉄は49年7月5日、第1次首切り約3万7千人、12日の第2次首切り約6万3千人、全逓は8月12日に約2万6、500人の首切りが発表されました。

しかしそれには、組合側の激しい抵抗と反撃が想定されます。組合側の反撃を抑え込むために占領軍が生み出した戦術は、一連の謀略事件でした。49年7月5日、国鉄の下山総裁が、常磐線綾瀬駅付近で轢死体で発見された（下山事件）、7月15日、東京・三鷹駅で、入庫中の電車が無人状態で走り出して民家に突入し、死者6人、重軽傷者20人を出した（三鷹事件）、8月17日、福島県の東北本線松川駅の近くで、何者かによって線路の犬釘や継目板がはずされ、旅客列車が脱線転覆し、機関車乗務員3名が死亡した（松川事件）の奇々怪々の3事件です。これらの事件が起こる度に、政府・警察側は、共産党や国鉄組合幹部の仕業だと大宣伝し、共産党員や組合幹部を逮捕しました。これ等の事件はその後の裁判闘争のなかで「でっちあげ」が証明され、被告全員の無罪が確定しましたが、事件の真相はアメリカCIAの謀略と言われていますが、いまだに謎に包まれています。

この経過を経て、国鉄は94、312名の免職、102、446名の転降職という大量整理が強行され組合側の敗北に終わりました。

こうしてアメリカ占領軍の指示という形で人為的手段で、国鉄・全逓の反共右派勢力・「民同」派に組合の指導権を奪い取らせました。全逓の場合、「民同」派（「再建同盟」派）は、当時、分裂策動が失敗して、組織存続の危機に直面していました。それが組合の中央闘争委員35名のうち29名までが、占領軍の指示で解雇されたために、右派勢力が一挙に指導部の多数派となり、組合支配の地位

今月の俳句

身辺の熊蜂払ひたき両手

岐阜蝶の消えては現れて山日和

となり合ふ畑仲間や葱坊主

町田　綾子（上越）

に立つことができたのです。

各労組の「民同」派の分裂策動によって、階級的労働運動の統一体としての全労連、産別会議からの脱退があいつぎ、49年末には、全労連450万人から200万人に、産別会議は157万人から77万人に後退しました。一方、「民同」派の連合体の形成の動きが、全国的にも県内でも進みました。

2つ目の側面は、「公然としたレッド・パージ」です。事実上のレッド・パージで、戦闘的労働組合を押しつぶしたうえで、占領軍や政府機関によって「共産党は民主主義の破壊者」と根拠のないレッテルを公然と貼り、共産党員とその同調者を職場と組合から追放しました。

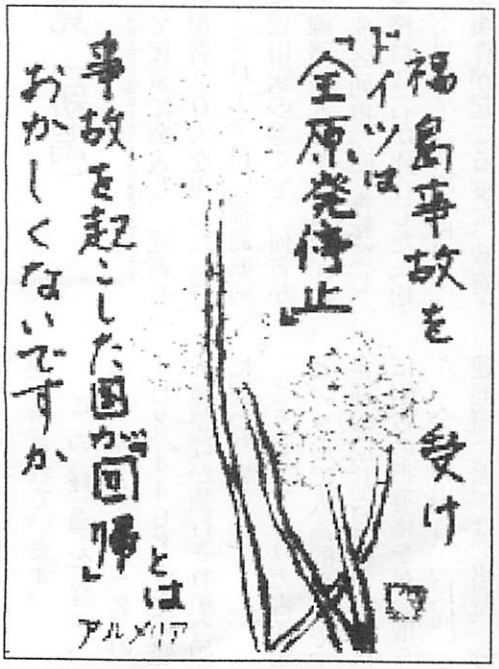
50年6月6日、マッカーサーは、突如、吉田首相に書簡を送り、日本共産党国会議員を含む全中央委員24人の公職追放を指令し、その活動を禁じました。そのとき新潟選出の上村進も議席を剥奪されました。翌7日には、「アカハタ」編集委員17人が公職を追われました。6月から7月にかけて「アカハタ」の発行禁止、「アカハタ」後継紙、同類紙認定のもとに中央紙、地方紙がつぎつぎと発行停止処分が強行されました。

北朝鮮が仕組んだ朝鮮戦争の開始とともに弾圧が拡大され、7月28日には、マスコミ関係者700余人の解雇を手始めに、公然としたレッド・パージが開始されました。8月には全国労働組合連絡協議会（全労連）が解散命令をうけ、9月1日には、公務員関係のレッド・パージが閣議決定し、年末までに民間企業・官公庁を通じて、1万数千人が思想・信条を理由として生活権を奪われました。

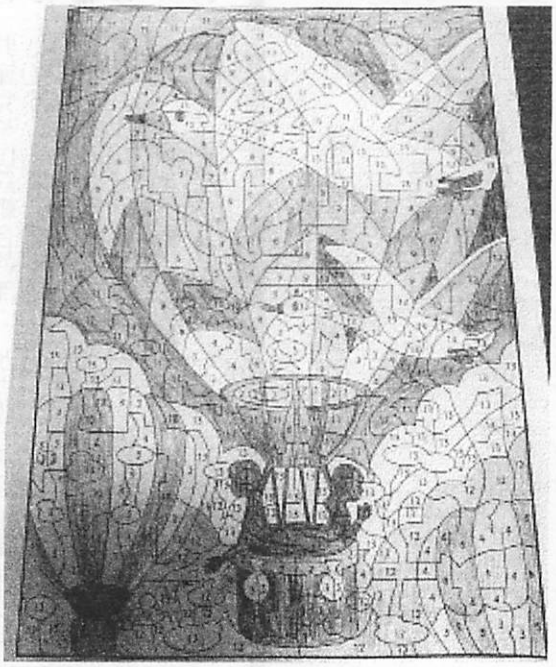
電気産業では、50年8月に、2，137人（東北258人）の解雇されました。（『風雪越佐』（第1集）348、9ページ「怒り」レッド・パージのたたかい」（井越春三）。

11月29日には、小・中学校の教職員に事前の説明がなく、いきなり新聞発表が行われ、12月7日、全国で約1200人の辞職勧告が出されました。権力の力で有無を言わさず強行したのがレッド・パージでした。

今月の絵手紙



笠原順子（新津）



飛田香奈（新潟）